

平成 29 年度第 1 回岡山大学医療系部局病院倫理審査専門委員会議事要旨

日 時 平成 29 年 8 月 8 日 (火) 15:30～17:00

場 所 医学部小会議室 (医学部管理棟 3 階)

出席者 塚原委員長, 伊藤委員, 白神委員, 森田(学)委員, 佐藤委員, 兒玉委員,
森田(幸)委員, 野口委員, 高下委員, 一井委員

欠席者 古松委員, 山下委員, 栗屋委員, 西原委員

陪席者 人見総括主査, 國米主査, 塩飽事務職員, 常盤事務職員

議 題

1) 委員長の選出について

事務局より, 委員構成等の変更及び委員名簿により委員の紹介並びに委員長の選出について説明があり, 互選により委員長として塚原委員を選出した。また, 委員長より, 委員長に事故がある場合の代理については森田(学)委員が指名された。

2) 病倫 21 BRCA1 あるいは BRCA2 遺伝子に変異を有する女性に対するリスク低減乳房切除の実施について (乳腺・内分泌外科 准教授 平 成人)

委員長から, 高難度新規医療技術評価委員会では審査対象ではない旨の確認をおこなっている説明があった。また, 申請者を同席させることの提案があり, 了承された。

委員長の指名により申請者から, 申請書に従い, BRCA1 あるいは BRCA2 遺伝子に変異がある場合は, その後の乳癌, 卵巣癌発症リスクは高く, 疾病のない乳癌, 卵巣癌発症リスクを予防的に切除する場合は, 自費診療になる旨の説明があった。また, リスク低減卵管卵巣切除の実施については平成 27 年 4 月に本倫理委員会で承認を得ており, 今回には, リスク低減乳房切除の実施について, 申請する旨の説明があった。

引き続き, 質疑応答があり, 以下のとおり意見があった。

- ・乳癌発症や手術の合併症が発症した場合の費用負担について確認があり, 乳癌となった場合や, 合併症が確認された日から保険診療が適応できると回答があった。
- ・乳癌・卵巣癌をともに考慮する必要があることから, 産科婦人科と連携しているか確認があり, 外来等でも連携している旨の回答があった。
- ・説明文書の文言 (予後とか罹患とか検出能力等) について患者さんへわかりやすい説明を補足するよう依頼があった。
- ・説明文書のリスク低減乳房切除による不利益, 危険性の箇所について, 記載の優先順位として, 患者さんにとって重要性の高い順で記載してはどうかという意見があった。

委員長から, 審議の結果, 同意説明文書の一部を修正し, 委員長が最終確認の

上，承認することとなった。

3) 病倫 22 病倫 22 肝臓移植適応判定委員会より審査依頼

①脳死肝腎同時移植の社会的適応について

②維持透析患者に対する生体肝単独移植の社会的適応について

(肝臓移植適応判定委員会委員長 教授 森松博史, 肝・胆・膵外科 教授 八木孝仁, 臓器移植医療センター 助教 杭瀬 崇)

委員長から，申請者を同席させることの提案があり，了承された。

委員長の指名により申請者から，平成 29 年 8 月 3 日開催の肝臓移植適応判定委員会において医学的には承認されているが，患者さんが 63 歳で比較的高齢であり，肝・腎の 2 つの臓器の提供されることについての社会的問題について，倫理的判断を依頼したい旨の説明があった。

引き続き，質疑応答等があり，以下のとおり意見があった。

- ・脳死肝腎同時移植は岡大以外でもできるのかという質問があったが，状況的には難しいという説明があった。
- ・維持透析を継続しながら生体肝移植を施行することが，生命維持が危険な状態になった時は，ベストな選択ではないかという意見があった。
- ・心情的には若い人に提供をと思うが，今回の場合は不適とする積極的な理由はない。

委員長から，審議の結果，脳死肝腎同時移植若しくは，維持透析患者に対する生体肝単独移植のどちらも臨床的な判断で施行することについて，承認することとなった。

4) その他

なし

以 上